

雲南市総合戦略マネジメントシート 〈次期総合戦略策定〉

作成日 令和 元年 5 月 31 日
更新日 令和 元年 8 月 7 日

総合戦略区分	人材の育成・確保	チームリーダー	政策推進課長 西村健一
(プロジェクトチーム)	(チャレンジ創生プロジェクトチーム)	関係課	政策推進課、地域振興課、うんなん暮らし推進課、情報政策課、健康づくり政策課、商工振興課、学校教育課、社会教育課キャリア教育推進室

1. 「人材の育成・確保」の基本方針と指標(目標値及び実績値)

総合戦略に定めた基本方針	「キャリア教育」による将来の担い手育成(子どもチャレンジ)、志ある若者の誘致・育成による地域課題解決の推進(若者チャレンジ)、「地域自主組織」による住民主体の地域づくり(大人チャレンジ)の3つのチャレンジを連鎖させ、まちづくりの担い手となる「人材の育成・確保」を図る。							
成果指標(KPI)	単位	区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
地域課題を地域主体で解決できていると感じる市民の割合	%	目標	—	50.0	50.0	55.0	58.0	60.0
		実績	45.1	45.4	56.2	39.8	42.2	

2. 分野の取組方針と目的・指標(目標値及び実績値)

プロジェクト名	総合戦略に定めた取組方針										
	目的(対象・意図)										
	成果指標(KPI)	単位	区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度		
プロジェクト①	[取組方針] 学校・地域・家庭・NPO等との協働により保幼小中高一貫した多様なキャリア教育の展開と学力向上を図り、将来のまちづくりの担い手を育成する。										
質の高い教育の提供による将来を担う人材の育成	対象	幼保園児		体力、正しい生活習慣を身につける							
		小学校の児童、中学校・高校の生徒		確かな学力を身につける(基礎学力を高める) / 【小学生】ふるさとへの愛着と誇りをもつ / 【中学生】地域課題や地域貢献に関心をもつ / 【高校生】地域課題に対し、主体的に解決策を考え、実践する							
		不登校児童生徒		学校での生活や学びに意欲をもってもらう							
	<重要KPI>	A	地域や社会を良くするために何をすべきか考えたことがある中3生の割合	%	目標	—	32.5	36.0	39.5	43.0	46.2
					実績	29.0	32.6	—	73.3	74.1	
	<重要KPI>	B	地域課題に対し、解決策を考え、実践したことのある高3生の割合	%	目標	—	50.0	55.0	60.0	65.0	70.0
					実績	—	50.0	68.8	70.8	64.6	
		C	ふるさとが好きな子ども(小6)の割合	%	目標	—	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0
					実績	94.2	94.6	93.0	92.8	92.4	
		D	ふるさとが好きな高3生の割合	%	目標	—	70.0	72.5	75.0	77.5	80.0
					実績	—	67.9	89.0	90.3	92.7	
		E	将来、雲南市で働きたい高3生の割合	%	目標	—	46.4	49.8	53.2	56.6	60.0
					実績	—	46.4	57.0	53.7	54.4	
	F	学力調査結果(正答率)が全国平均を上回る(小6) 国A	点	目標	—	1.0	1.1	1.2	1.3	1.5	
				実績	△ 1.3	△ 2.0	1.5	0	△ 3.0		
	G	学力調査結果(正答率)が全国平均を上回る(小6) 数A	点	目標	—	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	
				実績	△ 4.3	△ 1.0	0.5	△ 1.0	△ 4.0		
	H	学力調査結果(正答率)が全国平均を上回る(中3) 国A	点	目標	—	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	
				実績	0.7	1.5	1.0	0	2.0		
	I	学力調査結果(正答率)が全国平均を上回る(中3) 数A	点	目標	—	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	
				実績	△ 0.5	△ 0.8	△ 3.4	△ 5.0	△ 1.0		
	J	教育支援センター登録者のうち学校復帰・進路実現できた不登校児童生徒の割合	%	目標	—	80.0以上	80.0以上	80.0以上	80.0以上	80.0以上	
				実績	—	92.8	94.1	86.4	75.0		
プロジェクト②	[取組方針] 本気で学びたい大学生に地域課題解決の現場を学ぶフィールドワークやインターンシップなどの学習プログラムを提供する「雲南コミュニティキャンパス」を開校し、課題解決スキルをもつ人材の育成・確保を図る。										
大学機関やNPOと連携した課題解決人材の育成	対象	県内外の大学生		意 地域課題解決スキルを身につける							
		学生を受け入れる市民		図 学生との学び合いの中で課題解決力を身につける							
	<重要KPI>	A	UCC参加をきっかけにUターンした雲南市出身の学生数	人	目標	—	1	1	2	3	3
					実績	—	0	0	0	0	
	<重要KPI>	B	UCC参加をきっかけにIターンした学生数	人	目標	—	2	2	2	2	2
					実績	—	0	0	1	1	
		C	UCC参加をきっかけに雲南市内の地域活動に複数回参画した学生の割合	%	目標	—	25.0	30.0	35.0	40.0	40.0
				実績	—	26.0	45.0	36.0	30.0		
	D	UCC参加をきっかけに雲南市内の地域活動に複数回参画した学生数(ユニーク数)	人	目標	—	15	18	21	24	24	
				実績	—	15	30	31	21		
	E	大学生と協働で地域課題解決に取り組む市内団体数	団体	目標	—	3	3	3	3	3	
				実績	—	3	4	2	3		
プロジェクト③	[取組方針] 中間支援組織や都市圏の社会起業家等と連携し、市内外の志ある若者の育ち合いを促進し、課題解決スキルをもつ若者の育成・確保と課題解決ビジネスの創出を図る。										
課題解決人材の育成による若者チャレンジの創出	対象	市内外の志ある若者		意 ①地域課題解決にチャレンジする							
				図 ②課題解決ビジネスを創出する							
	<重要KPI>	A	課題解決ビジネスの創出数・従事者数(事業主含む)(累計)	件・人	目標	—	2・4	4・9	6・15	8・22	10・30
					実績	—	3・7	7・16	11・35	13・35	
	B	地域課題解決へチャレンジしようとした人数	人	目標	—	10	10	10	10	10	
				実績	—	18	20	28	24		
	C	地域課題解決にチャレンジし、今後も継続が明確な活動件数	件	目標	—	10	15	20	25	30	
				実績	—	10	13	23	33		

プロジェクト名	総合戦略(H27~H31年度)に定めた取組方針									
	目的(対象・意図)									
プロジェクト④ 産業振興センターの機能強化による新たな産業創出	成果指標(KPI)									
	単位	区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度		
	[取組方針] 専門スタッフやアドバイザーの配置等により、地域産業を支える多様な産業人材の育成・確保や市内事業所の販路開拓支援を進め、新たな産業創出を図る。									
	対象	新事業に取り組む者			意図	起業創業(事業承継含む)、または事業拡大し、事業を軌道にのせる				
<重要KPI>	A	起業創業件数(事業拡大含む)(累計)	件	目標	—	10	20	30	40	50
				実績	5	6	20	38	47	
<重要KPI>	B	事業承継の成立件数(累計)	件	目標	—	0	3	6	9	12
				実績	—	0	2	5	11	
<重要KPI>	C	起業創業・事業承継に伴う雇用創出人数(累計)	人	目標	—	10	23	36	49	62
				実績	—	11	34	60	90	
<重要KPI>	D	販路開拓の新規開拓数(累計)	件	目標	—	1	6	11	21	31
				実績	—	1	24	89	99	
プロジェクト⑤ 地域やNPOと連携した課題解決人材のUIターン促進	[取組方針] 地域自主組織やNPO等と連携した取り組みや積極的な情報発信により、地域課題解決に関心の高いUIターン者や活動実践者を獲得する。									
	対象	課題解決人材			意図	雲南市へ移住する又は雲南市で活動する				
<重要KPI>	A	地域課題解決を志すUIターン者又は市外在住者の人数	人	目標	—	24	25	35	35	35
				実績	5	23	28	37	36	
プロジェクト⑥ 地域自主組織の活動基盤強化による住民主体の地域づくり	[取組方針] 地域自主組織の法人化や人材育成など活動基盤の充実強化を図り、住民主体の地域づくり活動を促進する。									
	対象	地域自主組織			意図	地域課題解決に取り組みや環境を整える				
<重要KPI>	A	地区計画策定済・策定中の地域自主組織数	団体	目標	—	26	30	30	30	30
				実績	23	25	25	28	28	
成果指標の測定規格(実績値の把握方法)	プロジェクト① 質の高い教育の提供による将来を担う人材の育成									
	A・B・C・D・E) 児童・生徒の意識調査 F・G・H・I) 学力実態調査 J) キャリア教育推進室で実数値を把握									
	プロジェクト② 大学機関やNPOと連携した課題解決人材の育成									
	A・B・C・D) 名簿管理・追跡調査 E) 政策推進課で大学の授業としてではなく、大学生主体の課題解決活動に地域も協働で取り組む事例を調査し把握									
	プロジェクト③ 課題解決人材の育成による若者チャレンジの創出									
	A) 若者チャレンジの活動実績 / B) 幸雲南塾生・ラボアカデミー生の人数(※実践問わず) C) 幸雲南塾生・ラボアカデミー生(OB・OG含む)の実践件数									
	プロジェクト④ 産業振興センターの機能強化による新たな産業創出									
	A) 創業支援計画(中小企業庁)に基づく実績値 / B) 支援チームの活動実績(追跡調査) C) A・Bの実績値 / D) 販路開拓アドバイザーの活動実績									
	プロジェクト⑤ 地域やNPOと連携した課題解決人材のUIターン促進									
	A) 下記①~⑤の合計 ①幸雲南塾参加者(一般聴講含)のうち市内で地域課題解決にチャレンジしようとするUIターン者又は市外在住者数【幸雲南塾申込フォームにより実績値把握】 / ②起業創業・事業承継したUIターン者又は市外在住者数【創業支援計画(中小企業庁)に基づく実績(該当者へ聞き取り)】 / ③地域自主組織の担い手となったUIターン者数【地域づくり応援隊事業の実績(開始者の人数)】 / ④UIターンしまね体験事業の開始者数【UIターンしまね体験事業の実績】 / ⑤その他体験事業によるUIターン者数【就農サポート事業、介護人材確保事業など④以外の体験事業の実績】									
プロジェクト⑥ 地域自主組織の活動基盤強化による住民主体の地域づくり										
A) 地域自主組織へ聞き取り調査										
主要事務事業	プロジェクト① 質の高い教育の提供による将来を担う人材の育成									
	キャリア教育推進事業(NPO法人との協働によるキャリア教育の推進)、教育魅力化推進事業、中高生の！幸雲南塾事業、幸雲南塾inさんべ事業、「夢」発見ウィーク事業、キャリア教育推進のためのカタリバ体験事業、UNNAN学びサポート事業、学力育成強化事業(スーパーティーチャー活用事業)、郷土・伝統・文化推進事業、教育支援センター運営事業(NPO法人との協働による不登校対策支援)、市内県立高等学校後援会補助事業、スペシャルチャレンジ・ジュニア補助事業									
	プロジェクト② 大学機関やNPOと連携した課題解決人材の育成									
	コミュニティキャンパス推進事業									
	プロジェクト③ 課題解決人材の育成による若者チャレンジの創出									
	課題解決人材育成・確保事業、ノウハウ移転推進事業、スペシャルチャレンジ推進事業・ユース事業補助金・ホープ事業補助									
	プロジェクト④ 産業振興センターの機能強化による新たな産業創出									
起業創業・経営支援事業、雲南市産品販路拡大事業										
プロジェクト⑤ 地域やNPOと連携した課題解決人材のUIターン促進										
UIターンしまね地域づくり活動体験推進事業、UIターンしまね産業体験推進事業、UIターン介護人材確保事業、アグリキャンパス事業、シェアオフィス調査研究事業										
プロジェクト⑥ 地域自主組織の活動基盤強化による住民主体の地域づくり										
持続可能型地域推進事業、地域づくり応援隊配置事業										

3. H27-30年度の振り返り総括と今後の課題

《人材の育成・確保》

①振り返り総括（これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等）

(1) 人口社会増への貢献

- この間の取組を通じて、50名を超える志ある若者が移住し、市内で地域課題の解決に向けた活動(事業)を実践している。
- その内、およそ半数は20～30代の女性で、市内で結婚・出産するなど、自然増にもつながっている。
- 若者の活躍が「日本一チャレンジにやさしいまち」というポジティブなイメージを創出しており、今後も一定程度の若者の流入が期待できる。
- 高校3年生への意識調査では、「ふるさとへの愛着」(H27:67.9%→H30:92.7%)や「将来雲南市で働きたい」(H27:46.4%→H30:54.4%)の割合が高まっている。
- 一方で、若者が魅力を感じる職場が少ないといった課題がある。

(2) 関係人口の拡大

- 本市の地方創生の取組に共感し、市外・県外から雲南市のまちづくりに関わる若者等が増えている。
- 中間支援組織との連携により、全国の社会起業家や専門家とのネットワークが拡大している。
- 多様な働き方・暮らし方に対応できる活動の場(ワークスペース・滞在スペース)やこうした人材を地域や企業とつなげるコーディネート機能の充実が必要。

(3) まちづくりの担い手の確保

- 地域課題の解決に取り組む多様なプレイヤーが生まれ、チャレンジ生態系が耕されてきた。
- 中高生・大学生の地域課題に対する意識変容や意欲ある学生による実践活動などチャレンジの土台が整いつつある。
- 雲南出身の大学生の継続的な関わりが増えたほか、大学を休学し雲南に移住する大学生も出始めるなど次世代の育成が確実に進んでいる。
- 地域自主組織においては、後継者対策など様々な課題が生じている。特に、地域の担い手となる若者の参画について、重要課題として議論されており、全体での対策が始まっている(地域経営カレッジなど)。

(4) 起業創業

- 幸雲南塾等を通じて若者の起業創業の動きが広がった。特にUIターン者による起業が増えている。
- ローカルベンチャー協議会との連携により、地方での起業を志向する都市圏起業家とのネットワークができ、市内での起業や事業承継につながりつつある。
- 社会課題を新たなマーケットとして捉える都市圏企業との連携・協業が始まりつつあり、新事業創出やサテライトオフィスの誘致につながる動きもある。
- 一部の市内企業では新分野を模索する動きはあるが、新時代を見据えた経営革新や異分野とのコラボレーションによるイノベーション創出の動きは弱い。
- 産業振興センターにおいては、この間の取組成果を分析し、今後の方向性と担うべき役割を精査する必要がある。

②今後の主な課題（次期総合戦略の期間[～R6年度]を見据えて、主にどのような課題があるか）

- 未来に役立つ教育環境の創出
- 市内企業の魅力化と人材確保
- 起業創業・事業承継の一層の推進
- 地域や若者、市内外の企業によるイノベーションの創発
- 兼業・副業など多様な働き方や暮らしの実現
- 地域を担う人材の育成・確保
- 新たな資金調達やまちに必要な人材獲得の仕組みづくり
- 意志ある人材や投資を呼び込む効果的な情報発信
- チャレンジを可視化する場(拠点)の創出
- 民間活力と連携・協働した持続的な推進体制の確立
- 市職員の人材育成・働き方改革及び企業人材の活用など民間ノウハウの積極的導入

4. 次期総合戦略における「人材の育成・確保」の基本方針

基本方針

- この間の取組を足掛かりに、社会課題の解決に向けたチャレンジを一層生み出していくまちとしてブランディングしていく。
- これまでの「子ども×若者×大人×企業チャレンジ」をベースに、社会の進化や未来の可能性を踏まえ、雲南市が持続可能なまちとなるための“尖ったプロジェクト”に再編する。
- 本プロジェクトを押し上げ、ソーシャルチャレンジを加速させる仕掛けとして、「①チャレンジを支える資金調達」「②まちに必要な人材の獲得」「③チャレンジを可視化する場(拠点)の創出」「④意志ある人材や投資を呼び込むための情報発信」の4つの機能について、民間活力と連携・協働を図りつつ、充実・強化をめざす。
- 加えて、本プロジェクトの実現性と持続性を高めるため、「技術の進展に応じた教育の革新」、「新時代に対応した高等学校改革」に向けて、オープンイノベーションにより大胆かつスピード感をもって取り組み、未来に役立つ教育環境の創出をめざす。
- 持続可能なまちの実現に向けては、SDGs(国連が定める持続可能な開発目標)の達成に向けた取組を推進する。これにより、ソーシャルチャレンジに必要な人材と投資をさらに呼び込む。